豚 肉 情 勢 9月12日 更新 JA全農ミートフーズ株式会社 ○ 7月の全国豚と畜頭数は、1,281千頭と前年を下回った。(前年比97.7%) 国内生産量の推移 (千頭:%) 農水省出荷予測 (千頭:%) 地域別と畜頭数(数値は前年同月比);北海道101.9%、東北100.2%、関東95.4%、北陸甲信越102.2%、東海99.4%、近畿95.0%、中四国95.6%、九州・沖縄96.8% 出荷予測 国内と畜頭数 暦年 ○ 8月の全国と畜頭数は、1,193千頭(速報値8月31日まで集計、前年比97.5%)と前年を下回る見込みとなった。 千頭 前年比 頭数 前年比 なお、稼働日数は昨年より2日少なく、1日当たりの平均と畜頭数は66,256頭(前年実績:61,139頭/日、前年差5,117頭/日)となった。 R3年 16.836 100.9 R7年 9月 1.289 ○ 肉豚生産出荷予測(農水省食肉鶏卵課;8月21日付け)によると、9月;1,289千頭(前年比101%)、10月;1,477千頭(同101%)、11月;1,321千頭(同94%)、 R4年 16,577 1,477 98.5 R7年 10月 101 12月:1,428千頭(同98%)、2026年1月:1,347千頭(同96%)であり、今後5か月間の合計頭数は前年比約98%と前年を下回る見込み。 R5年 16.407 99.0 R7年 11月 1.321 94 ○ 7月の輸入通関実績は、豚肉全体で82.8千~(前年比96.0%、前月比98.8%)と前年を下回った。 R6年 16,266 99.2 R7年 12月 1,428 98 内訳は、チルドが34.2千~(前年比122.8%、前月比106.7%)、フローズンは48.6千~(同83.2%、同93.9%)となった。 R7年 4月 97.7 R8年 1月 1.347 1.376 輸入相手国別では、チルドはカナダ、米国が増加した。フローズンはブラジル、米国が増加した。 R7年 5月 1.297 95.4 R7年 6月 1.231 103.2 チルド ;カナダ19.7千 (前年比151.2%)、米国11.5千 (同104.9%)、メキシコ3.0千 (同77.5%) 97.7 R7年 7月 1,281 - フローズン ;スペイン13.7千ド」(前年比73.4%)、ブラジル8.9千ド」(同147.6%)、米国6.6千ド」(同102.5%)、カナダ4.6千ド」(同82.2%)、メキシコ5.2千ド」(同74.0%) ○ (独)農畜産業振興機構の需給予測(8月27日公表)によると、8月の輸入量:78.5千 、(前年比93.4%)、9月の輸入量:76.9千 、(同97.8%)と見込まれる。 (b ~ %) 輸入量の推移 財務省:通関実績 チルドは、米国産の価格上昇により、価格優位性が生じたカナダ産の増加が見込まれることや高騰する国産豚肉からの需要シフト等から、8月、9月ともに前年同月を 輸入数量 チルド数量 上回ると予測する。フローズンは、国内の輸入品在庫が多いこと等から、8月、9月ともに前年同月を下回ると予測する。 前年比 前年比 3か月平均では、チルドは前年同月を上回り、フローズンは下回ると見込んでいる。 R3年 903,455 420.361 101.3 101.0 令和7年8月:合計78.5千%(前年比93.4%)、チルド30.0千%(同103.4%)、フローズン48.5千%(同88.1%) R4年 977.158 108.3 403,854 96.3 令和7年9月:合計76.9千%(前年比97.8%)、チルド30.4千%(同100.4%)、フローズン46.5千%(同96.1%) R5年 919,713 99.1 94.2 393,416 直近3か月(7月~9月)平均:合計78.6千、(前年比94.7%)、チルド31.2千、(同107.5%)、フローズン47.4千、(同87.9%) R6年 976,482 107.2 384,908 98.4 ○ 総務省発表の7月度家計調査報告によると、全国二人以上の1世帯当たり豚肉購入数量は1,729g(前年比101.6%)、支出金額が2,824円(同103.7%)となり、 R7年 4月 93.992 95.1 35.868 106.4 R7年 5月 90,535 34,523 102.9 96.2 2.小売動向 🔘 日本スーパーマーケット協会など食品関連スーパー3団体の7月の販売統計速報によると、畜産部門の売上高は1,195.2億円(前年比104.4%、既存店ベース103.1%)と前年を上回った。 R7年 6月 83,787 102.5 32,038 106.0 全般的に相場高が続き、牛肉の不振と豚肉・鶏肉への需要シフトが継続している。牛肉は国産、輸入ともに高値推移が続き苦戦傾向だが、猛暑を追い風に週末BBQ、 R7年 7月 82,783 96.0 34.194 122.8 焼肉需要は好調。味付肉の動きも良かった。豚肉は冷しゃぶ用が伸長も、国産豚の価格高騰が続き、輸入豚が好調に推移した。鶏肉も価格高騰が続き伸び悩んだ。 ○ 日本チェーンストア協会が公表した7月販売概況によると、畜産品の売上は829.7億円(店舗調整後で前年比102.1%)となり、前年を上回った。 (グラ、円、%) 家計消費量 **豚肉、鶏肉の動きは良かったものの、牛肉は鈍かった。鶏卵、ハム・ソーセージの動きは良かった。** 暦年 全国1世帯当り 8月概況 ○ 一部の量販店が輸入豚肉の品ぞろえを強化したことや夏休みによる学校給食が休止している影響等から、国産豚肉への需要が減少したため需給が緩んだ。 数量 前年比 金額 前年比 R3年 22,559 98.2 31.892 97.1 R4年 22,297 98.8 32,487 101.9 ○ 日本ハム・ソーセージ工業協同組合発表の7月の豚肉加工品仕向量は30.0千゚。(前年比96.6%)と、加工品の値上げによる販売不振が続き、前年を下回った。 R5年 22,031 33,553 98.8 103.4 内訳は、国産原料5.8千%(前年比95.4%)・輸入原料24.2千%(同96.9%)となった。 R6年 21,829 99.1 33,817 100.8 なお、上記仕向量とは別枠のシーズンドポークは8.9千%(前年比99.1%)と、前年並みとなった。 2.891 R7年 4月 1.843 102.9 107.3 ○ (独)農畜産業振興機構の需給予測(8月28日公表)によると、7月末の推定期末在庫量は241.5千%(前年比110.4%、前月比98.0%)となり、前年を上回った。 1,877 R7年 5月 102.3 2.947 107.5 内訳は、輸入品;219.1千 (前年比112.1%、前月比98.6%)と前年を上回り、国産品;22.4千 (同96.4%、同92.9%)と前年を下回った。 R7年 6月 1.814 100.6 2.844 104.3 また、今後の期末在庫は、8月は232.6千~(同104.6%)、9月は235.2千~(同105.6%)と前年を上回る見込みで推移するものと見られる。 1.729 R7年 7月 101.6 2.824 103.7 加工品什向量 (千八・%) 市況の推移(東京市場)(円/kg・%) ○ 8月の東京市場枝肉卸売価格(速報値:8月31日時点)は、668円/kg(前年比87.3%)と前年を下回った。 暦年 加工品仕向量 暦年 豚枝肉「上物」(税込み) 8月の相場は、酷暑の影響から肉豚の成育遅れなどにより国内出荷頭数が伸び悩んだものの、一部量販店での輸入豚肉へのシフトや夏休み期間での学校給食休止の影響 千·、 前年比 円/kg 前年比 等から国産豚肉への需要が減少したため、需給が大きく緩み、前年・前月ともに下回った。 R3年 379.4 100.6 R3年 546 97.3 R4年 368.5 97.4 R4年 582 107.0 ○ 9月の相場は、全国的に30℃を超える残暑が続くことが想定され、肉豚生育への影響が継続する可能性が高いことに加え、学校給食の再開や3連休および翌週の飛び石連休 R5年 91.5 R5年 336.4 609 104.9 への対応等から需給が引き締まることが予測されるため、強含みを見込む。 R6年 103.8 R6年 349.2 651 106.7

R7年 4月

R7年 5月

R7年 6月

R7年 7月

30.4

29.4

28.6

30.0

99.7

99.9

95.4

96.6

R7年5月

R7年6月

R7年7月

R7年8月速報値

660

795

867

92.4

105.4

104.3

87.3

項目

[.国産

2.輸入

.家計

需

要

在

庫

枝

肉

相

場

7月概況

3.加工肉

.在庫

L.R7年8月

2.予測

速報値

R7年9月

仕向量

(参考)形態別相手国別輸入数量

購入量、支出金額は前年同月を上回った。

<相場予想: 東京市場、税込み>

7月実績

【上物】(前年比) 867円/kg(104.3%)

8月実績(速報値)

668円/kg (87.3%)

9月予測

690円/kg (103.6%)

10月予測

650円/kg (105.0%)

供